



男女共同参画基本計画は第6次計画になった

金森 叔英(ベリーズ 18)

1999年6月23日に公布・施行された「男女共同参画社会基本法」。この法律を推進するために作成が義務付けられているのが基本計画である。

基本法では「男女の人権の尊重」「社会における制度・慣行についての配慮」「政策等立案決定の場への共同参画」「家庭生活における共同参画」などがあげられている。これを通して『男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ共に責任を担うべき社会を形成する』ことを大きな目的としている。



この3月に第6次計画が定められた。これまでの計画の特徴である。

第1次	2000年	固定的な性別役割分担の解消 基盤整備
第2次	2005年	ワーク・ライフバランスや男性の育児休業取得促進。「2020年に指導的地位に占める女性の割合を30%に」 男性にとっての男女共同参画
第3次	2010年	DV防止・ジェンダー・ギャップの解消に向けた数値目標の設定 生活上の困難に対する支援 M字カーブの解消 男性・子どもの視点の導入
第4次	2015年	「すべての女性が輝く社会」の実現。女性活躍促進法の制定 キャリア形成に焦点 多様な困難を抱える女性に支援
第5次	2020年	固定的役割分担意識の強い変革。多様性の重視。男女共同参画の視点に立った防災。「2020年30%」の目標未達成
第6次	2026年	「多様なしあわせ(well-being)の実現」女性の所得向上・経済的自立・フェムテック*による健康支援 テクノロジーの進展にともなう男女共同参画の推進

*フェムテック: 女性特有の健康課題を最新技術で解決する商品・サービス



25年の月日の中で社会は大きく変わった。声を大きく上げなくとも「普通」の状況・状態になったものもある。努力の实ったものもある。しかし、課題としてきたことがなくなったわけではない。それを拾い上げて私たちの手で、なかまと知恵を絞って解決への道筋を求めているかなければならないと思っている。これも『ともに責任を担う』ことの1つであるのではないかな。数年前に出会ったものなのだが、川崎市の市民団体ジェンクロス・カワサキさん*が作られた「ジェンダーもやもや発見カード」という生活の中でのもやもやを共有する、誰かに話す、そしてそのもやもやの解決の糸口を探るワークショップのツールがある。「もう男女平等」それってほんと？「配偶者の呼び方」なんて呼ぼうかな？「苗字を変え

若かったときは自分の受けた不平等・不利益を解消したい、社会を変えなくては…そんな思いが強かった。私自身も 25 年の年月を重ねて社会はなかなか変わらないことも分かった。だからこそこのようなツールに魅力を感じるのかもしれない。先頭は走れないけれど足元から、小さなことから「私がわたしでいることを認められる社会をつくるにはどうしたらよいか」を考えて、実行していきたい。生きたい…かな。

☆ . . ☆ . . ☆ . . ☆ . . ☆ . . ☆ . . ☆ . . ☆

会長 丸山真由美(サーティネット'05)

私がウィルあいち交流ネットに携わるようになって 20 年あまりが経ちました。自分たちのグループ運営について相談したり、地元、春日井市で審議会委員になった時、他の自治体の資料集めにご協力いただいたり、ウィルあいち交流ネットの皆様には色々と助けていただきました。

～今年度の活動について～

第 1 回学習会

会員の「学びたい」「深めたい」などの想いから、今年度のテーマを探し、主催事業の開催や会員同士の交流ができたかと考えています。

モヤモヤを原点に、その先へ

副会長 箕浦真智子(Reiwa'19)

昨年度、自分には無縁だと思っていた「会長」という重責を担い、多くの気づきを得ました。何より深まったのは、交流ネットへの「愛」です(笑)。迷いに迷いましたが、お引き受けして本当によかったです。「2025 年度愛知県男女共同参画推進活動者表彰」の荣誉も賜り、大きな励みとなりました。今年度も自分にできることを地道に重ねてまいります。



幼少期から母に「女の子でしょ」「娘だから」と言われるたびに抱いた性別への理不尽さや疑問。この「モヤモヤ」こそが、私の活動の原点です。しかし学びを深めるなかで「女性、女性」と繰り返される言葉に、新たな違和感を覚えるようになりました。性は女と男だけでしょうか。性別だけで割り切れない生きづらさもあります。

今年度のテーマを決める会議で「性の多様性の視点から学びを深めたい」と発言した際、「男女共同参画という名称のままでよいのか」という一歩踏み込んだ意見が出されました。その流れから開催が決まった第1回学習会。組織としても、個人としても、この先の変化が楽しみです。今年度の活動を終えたとき、新しい自分に出会える、そんな一年にします。



出来る範囲でコツコツと

書記 婦木 望希(ME24)

2025 年度より交流ネットに参加し、2026 年には学習セミナーで司会を務める機会をいただきました。交流ネットの皆様には、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

2026 年も早いもので、すでに半年以上が経ちました。社会人になって 16 年目を迎え、年々時間の経過が早く感じられるようになりました。一人ではなかなか進められないこともあります。日々、周りの皆様のお力をお借りしながら、多くの経験を積ませていただいております。

また、無理をしすぎると体調を崩すことも実感した今日この頃です。これから本格化する夏の暑さにも気をつけながら、出来る範囲でコツコツと、一歩ずつ成長していけるよう努めてまいります。



デジタル化

会計 佐野由香子(Fem.'9)

今年度、ウィルあいち交流ネットの会計を任せて頂きました。

日々進化し続ける世の中、アナログ人間からの脱出が出来ない私に何が出来るのか、こうして役を頂く度考えさせられます。

自分自身の努力目標としては、アナログからデジタルへの移行を図ることで、諦めないことが大事だと思っています。

そして交流ネットの会議の中で活発な意見の交換が出来る私でありたいです。皆さんと共に進化出来る一年にしましょう。



ジェンダー視点による避難所運営

会計監査 尾崎百合江(そだね！2017)

十年以上前から私が所属する西尾市女性消防クラブの活動の一つとして、地域の皆さんと一緒に避難所運営ゲーム(HUG)の体験をしています。ゲームの内容は、避難者の年齢、性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームです。何十回と行っていますが、未だに新たな気づきがあり、前向きでみずみずしい気持ちにしてくれます。トイレや更衣室の問題、炊き出しは誰がするのか、洗濯物はどこにどう干すのか、性被害を防ぐための対策はどうするかなど、女性に負担のかかる問題が山積みになっています。生理用品一つを配るにも、男性リーダーだけでは到底無理な話です。このゲームは困難にどう立ち向かっていくのか、災害を自分事として考えるキッカケになると感じます。快適な生活空間を確保できる避難所を作るには、性別に偏りのない運営組織にすること。そのためには日頃から地域における女性リーダーの育成が大切だと思われま



安全、安心で誰もが住みたくするような地域を目指して、これからも積極的に活動を続けていきたいと考えています。



編集委員挨拶

☆新しいフェーズに乗り換えよう

杉本 浩子(Amelie'10)

サッカーWorld カップが終わり第5回愛知・名古屋アジアパラ競技大会を迎える年、愛知県女性地域実践活動交流協議会は40周年に突入する。



かつて家庭内で子育てし、家を守った女性達は、今は社会を支える一員として責務を負うようにもなった。NHKの番組で日本人特有の遺伝子として挙げられていた「仲間を作る特性」の影響は良い面だけじゃない。学校内のいじめが増え、匿名流動性犯罪グループなどの誘いに気持ちを引きずられる若者たちの存在も明らかになっている。コロナ後、またしても変化の真っ只中だ。だからこそ、個々人の強い意識を守る為、心や時間を自由に駆使できる柔軟な女性達のネットワークが役割を担う時が来ているのではないかと感じている。

☆…………フェイク、AI・・

森田 登喜子(ウィル 2000)



文章を書いていると、親切に要約してあげましょうか、と文頭に出ました(笑)。そういえば、目の前でAIに文章を作らせた人がいまして、同じ年頃の私は少々焦りました。そのせいか、この通信を編集しながらも、ふとAIならもっと上手くレイアウトするだろうと、背筋が寒くなりました。

ご寄稿にうなずき、時に笑い、時に涙ぐんで読ませていただいたこの数年は楽しいものでした。まさか、ここにフェイクはないと私は確信しています

言葉は言霊、事務連絡ならAIも良いだろうが、心を伝えるには・・、いや、それは思い込みかも、と心惑う日々です。でもまっ、自分は自分だから、「これで、よし」と居直ることにします 

☆2026 年 6 月に思ったこと

間瀬 結子(Reiwa'19)

男女共同参画週間を冠した、自治体主催の講演会に参加した。子育てが落ち着いてきた 40 歳前後の女性を対象に、管理職に就くこと、あるいは地域での起業を促す内容。会場のほとんどを占めていた 60、70 代の女性たちは一体どんな気持ちで聴いていたのだろう。

家庭内ケアや市民活動を懸命にこなしながらも、社会的に不安定な立場に置かれていた女性たち。



彼女たちと行政が歩調を合わせて社会に物申してきたのが「男女共同参画」ではなかったのか。変わるべきは社会構造で、変えるための活動をしていたはずなのに、いつの間にか、人材不足の日本経済を支える担い手・地域維持の担い手としての能力を身に付けることにすり替わってしまった。

あらためて思った。私は、人生の折り返しを、自分が住んでいるまちで自分らしく過ごしたい。そのためにはどうすればいい？ぜひ、交流ネットの皆さんのお話を聞かせてください。



☆根底にある日本の変わらぬ男女平等の意識

山田 和枝(Step07)

私たちの意識というものは、どのように自分の中で熟成されていくのでしょうか。あらゆる情報を取り込み、吟味して内面に沈着させる部分もあるでしょうが、多くは雑多な暮らしの中の過程を通して判断し、ほどほどに前に進めているのではないのでしょうか。

今回ここに来て、皇室典範改定などという私たち庶民にとって一見雲の上の出来事のような議題が新聞紙上をにぎわしています。それは天皇制を男系男子に固執し、それを取り込もうとしている強力な力が渦巻いているという現実です。

今このような世情を女性一人一人はどのように受け止めているのでしょうか。天皇制がこのような形で運営されることは、男女平等をないがしろにして国の土台である国民主権を揺るがすことにつながるのではないのでしょうか。男系男子の意味をもっともっと深堀し、一人一人が考えなければならない大切な問題であると私は考えます。

戦後生まれの私が結婚し子育てしながらもがいた日々、そんな暮らしの中で女性運動の波はこんな私にも日を当て、道しるべとなりました。世界女性会議はメキシコ・デンマーク・ナイロビ・北京へと続きました。そんな女性運動の波の中で私は本当に自分の中から内なる声に目覚め、産声を上げることができたのです。

しかし今それらはどこか遠くへ追いやられようとしています。経済大国日本は、ジェンダー・ギャップ指数ランキング 146 ヶ国中 118 位をどう受け止めればよいのでしょうか。

女性の生きやすさ抜きにはこの世の平和はありえないと私は固く信じています。



もどらぬ 夏



新入会グループ紹介！

はじめまして、ナナちゃん 25 です



私たちのグループ名は、名駅のシンボルとして長年親しまれている「ナナちゃん」に由来しています。ナナちゃんは、時代ごとにさまざまな姿に変身しながら、多くの人に親しまれ、街を見守り続けています。その姿は、自分らしさを大切にしながら社会の中で活躍する女性の姿とも重なります。私たちもナナちゃんのように、変化を前向きに受け止めながら学びを重ね、一人ひとりが輝ける社会づくりに貢献したいという思いを込めて、「ナナちゃん 25」と名付けました。

2025 年度は、14 市町から 14 名が参加し、全 8 回の研修を通じて学びを深めました。また、3 つの班に分かれて研究レポートの作成にも取り組み、各テーマについて考察を重ねました。

これからも交流ネットの活動に参加しながら、それぞれの地域や活動の場で学びを生かしていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。（上村 礼子記）

【1 班】(杉浦奈津子、服部利恵、上村礼子)

私たちは年齢を重ねても自分らしく生きたいという多くの人に共通する普遍的な欲求を「生きがい」という観点から考え、高齢期の健康寿命の延伸と生きがいの維持のためには自治体の施策の理解や活用が不可欠であることを学びました。交流ネットへの参加も生涯学習として多くの学びを得ることができると期待しています。



【2 班】(山本悦子、伊左治敬子、加藤明美、池野早苗、生田恭子、村井真子)

愛知県内の女性議員へのインタビューを通し、女性が政治参加に踏み出す背景について考えました。ライフイベントの区切り、地域活動での経験、周囲からの推薦が重なることで、一步を踏み出す契機となることが分かりました。今後も交流ネットを通じ、男女の枠にとらわれずに共生できる社会づくりに貢献していきたいと思います。



【3 班】(伊藤弓恵、伊藤留里子、渋谷木の実、中井真以、木原理佐子)

男性の家事・育児参画をテーマに、男性を縛る固定的な性別役割意識や仕事中心の社会構造が、男性自身の居場所のなさや女性のキャリア継続に与える影響について研究しました。その結果、性別による役割分担を前提とせず、誰もが家庭や地域、職場で自分らしく役割を持てる社会づくりが重要であると学びました。今後も一人ひとりが固定観念を見直し、誰もが主体的に生きられる男女共同参画社会の実現に貢献していきたいと思います。



ウィルあいち交流ネットは、2000 年ウィルあいちセミナー等の修了生の自主活動グループが結成

メンズリブ名古屋/ ‘女性学’ 98 の会/ グループ・キーツ/ ウィル 2000/ I.W.L/
ウィル Do 2002/ サーティネット’ 05/ ベリーズ 18/ Step07/ Fem.’ 09/ Amelie’ 10/
ひかるよ’ 15/ そだね！ 2017/ Hey Say Final/ Reiwa’ 19/ みつ 2020/
リモート 2021/ Women’s Cup’ 22/ Lapin’ 23/ ME24/ ななちゃん 25/ (加入順)
2026 年 7 月発行

編集発行：ウィルあいち交流ネット 協力：公益財団法人あいち男女共同参画財団